

2014 11/25

No.1983

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



一の酉（とり）の10日、横浜市南区の金刀比羅大鷲（ことひらおおとり）神社で恒例の「酉の市」が開かれ、福を`かき込む、熊手を求める多くの客でにぎわった。二の酉は22日。



contents

視点・点描	3
川崎市と大田区が“共湯”	
社会	4
マイナンバーがやってくる 企業も社会保険・税で対応準備を	
国際	6
中国依存を高めるモンゴル経済 外貨準備、海外投資流入が減少	
社会	8
フィリピンへ英語留学が急増 学校乱立で質の低下懸念も	
くらし2014	10
美容医療トラブル	
広告珍談	12
うまい物もろもろ② 活字ばなれでない!	
NNAアジア経済レポート	13
神奈川景気データファイル	14
神奈川景気データファイル	15

事務局だより

◇横浜定例講演会

2014年12月12日（金）

横浜ベイシェラトンホテル&
タワーズ 4階「清流」

▽講演会 11時～12時30分。
演題は「2015年の動向を読む」。
講師は神奈川新聞社論
説主幹の中嶋 弘孝氏、共同
通信社政治部長の鈴木 博之
氏、同社経済部長の谷口 誠
氏、同社外信部長の儀間 朝
浩氏

▽交流会 12時30分～14時

◇横浜定例講演会

2015年1月26日（月）

14時～15時30分

横浜情報文化センター 6階
「情文ホール」

講師はフリーアナウンサー、
元NHKアナウンサーの
国井 雅比古 氏

演題は「小さな旅して～人との
出会いと発見」

視点 点描



川崎市と大田区が「共湯」

11月7日夕、東京・蒲田の日本工学院で行われた銭湯文化再発見がテーマの記者会見。浴衣姿の男女学生2人が司会進行役を務め、「ひな壇」にはやや緊張した面持ちの主役たち、大田区・川崎市浴場連携事業実行委員会の近藤和幸会長と、星野実副会長（川崎浴場組合連合会副会長）が並んだ。会見で実行委員会は、多摩川を挟んだ川崎市と東京都大田区にある計102軒の銭湯に若者や家族連れを呼び込み、ファンを拡大しようとして、店舗情報や所在地などを検索できるスマートフォン向け無料アプリ「さくつと銭湯マップ（さくせん）」を開発、12月9日から運用を開始すると発表した。数多くの工場が集中し、日本の高度成長を支えた川崎市と大田区。内風呂が珍しい時代に、油や汗にまみれて働く労働者にとって



「ケコロ」とともに意気込む銭湯関係者ら

銭湯は不可欠な存在だった。コミュニティの場でもあった。そんな銭湯も生活様式の変化に伴い、ピークだった1960年代半ばの3分の1に減少した。「足を思いっきり伸ばせる」「裸の付き合いができる」。銭湯の良さや文化を未来につないでいこうと、お隣同士の「共湯」が成立した。アプリは、ユーザーの所在地から、あるいは銭湯の所在地などから検索できる。飽きさせないように

人気アニメ「ケコロ」とのコラボも実現。運用開始日から来年2月28日まで、「フルーツVSコーヒードっちの牛乳がうまい!？」と銘打ち、ユーザーへのプレゼント付きスタンプラリーも実施する。

観光スポットを加えたり、20年の東京五輪・パラ五輪で来日した外国人も利用できるように多言語化を図ったりするなど、バージョンアップも検討している。

この連携は、川崎市と大田区が13年4月に締結した産業連携に関する基本協定に基づいている。協定によって商業・観光分野では、スタンプを集めると得をする「大田・川崎ちよい呑みキャンペーン」や特典付き「大田・川崎旧東海道ガイドマップ」の配布が、ともに11月30日まで実施されている。

（神奈川新聞社川崎総局長

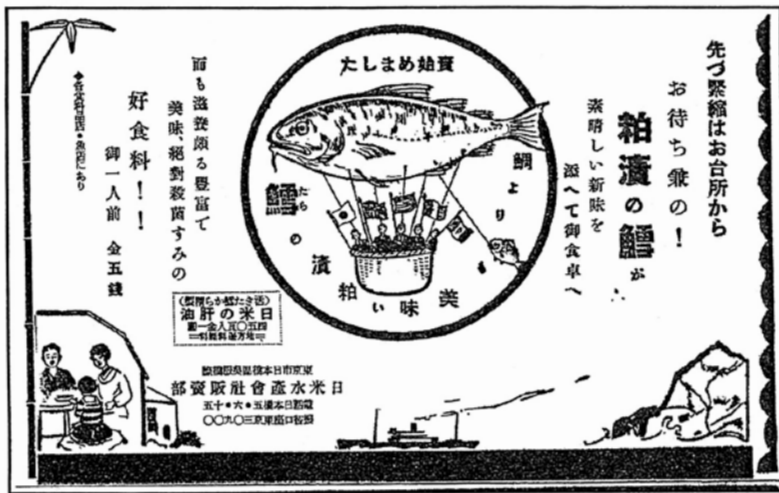
小松 裕史）

活字ばなれでない!

文字ばなれだ、活字ばなれだと
なげかれて久しい。新聞はオール
ド・メディアとも。はたしてそう
なのか。

とんでもない、図書館へ行って
ご覧なさい。児童図書コーナーに
あるはあるは、新聞や広告関連の
本がちやんとある。おとなが勝
手になげているうちに、子供た
ちはさつさと新聞や広告のこと、
勉強しているのです。

そのひとつ、《広告》とでつか
く表紙に書かれた、「よのなか」
がわかる総合学習 しる・みる・
つくる」というシリーズがある。
《広告って何だ》《広告のしくみ》
《自分で広告しよう》《学校を広告
しよう》《広告いま・むかし》の
5冊。千葉大学教育学部の先生が
監修して、学習研究社が出版した。



しい成果をあげることだろう。
もうひとつ、《広告いま・むかし》
のなかに、「新聞広告が始まった」
というページがある。本誌の19

62号で紹介した日
本人最初の広告や、
1966号に記した
横浜毎日新聞のこと
を、図版を入れてわ
かりやすく教えてい
るのである。
ボクのマゴ・薫平
は、磯子区の小学校
の6年生。『さかな
へんの漢字集』を制
作中。広辞苑と首っ
引きで、サカナの文
字に取り組んでる。
とても活字ばなれと
は思えないのだ。(こ
れをジジバカとい

「自分で広告」や「学校を広告」
を読んだ子供たちが成長して、世
の中に巣立ったとき、いかに頼も
う。上の広告をどうぞ。
《鯛》の粕漬の広告、192

ず緊縮はお台所から」とは発売さ
れたその年、ニューヨークの株価
暴落を発端にした、世界大恐慌を
意味する。まことにタイムリーな、
キャッチフレーズである。
「お待ち兼ねの粕漬の鯛が素
晴らしい新味を添えて食卓へ」。
鯛形のバルーン、ゴンドラに日
本・イギリス・アメリカ・フラン
ス・ドイツの国旗をかかけて、国
際的な商品をイメージする。「鯛
よりも美味しい粕漬の鯛。売始
めました」。「しかも滋養頗る豊富
で美味、絶対殺菌すみの好食
料! 御一人前 金五銭」「各食
料品店・魚店にあり」
ボクは薫平に、「鯛」を知って
いるかと聞いたら、食べたことな
いけど、漢字は書けるよという。
北の海のサカナだから、「雪」と
書くことも知ってるにちがいない。
(美術工ツッセイスト、茅ヶ崎市在住)
(図) 粕漬の鯛の広告・1929
(昭和4)年掲載